

2008年3月期 NSKグループ中間報告書

(2007年4月1日～2007年9月30日)



強い会社作りを進めます ～ 体質強化と成長戦略の両立 ～



代表執行役社長
朝香 聖一

📌 当中間期の概況と販売状況についてお聞かせください。

A 当中間期のグローバル経済は、米国サブプライムローン問題の実体経済への波及が懸念されましたが、その影響は限定的なものに留まり、堅調に推移いたしました。日本は、個人消費や設備投資の一部に弱さがみられましたが、緩やかな景気回復が続きました。米国は住宅投資の減少で景気回復は緩やかなものとなりました。欧州はユーロ圏や英国で景気回復が続きました。アジアは、中国が景気拡大を続けており、その他の諸国も総じて緩やかな景気拡大を続けました。

当社グループの事業領域におきましては、精密機器関連製品が、半導体・液晶製造装置向け需要低迷の影響を受けましたが、産業機械軸受や自動車関連製品につきましては、グローバルな景気拡大や中国・インド等新興市場での需要の伸びにより受注が拡大し、世界各地の工場は概ね高水準の生産を続けました。

このような状況のもとで、当社グループは「トータル・クオリティーにおいて業界No.1の会社になる」ことを中期ビジョンとして掲げ、規模の拡大に偏ることなく、強い会社作りを目指して体質強化と成長戦略に取り組んでまいりました。

この結果、当中間期の売上高は3,693億26百万円と前年同期比5.7%の増収となりました。

📌 収益の状況は如何でしたか。

A 利益面につきましては、原材料価格の値上げ、税制改正による減価償却費の増加、販売管理費の増加などコストアップ要因を、物量増効果、外部調達コストの削減、円安による輸出採算

の改善などではね返し、営業利益は315億76百万円と前年同期比5.2%の増益となりました。

経常利益は293億68百万円となり、前年同期比5.8%の増益となりました。特別利益に投資有価証券売却益1億59百万円、特別損失に関係会社株式売却損1億64百万円を計上し、税金費用及び少数株主利益を加味した後の中間純利益は177億1百万円と前年同期比2.4%の増益となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりです。

① 日本

産業機械軸受の売上高は、工作機械向け、建設機械向け、アフターマーケット向け等が堅調でした。自動車関連製品は、軸受は、自動車メーカーの輸出向け生産増加の影響により、ハブユニット軸受等が増加しました。自動車部品は、高出カタイプ電動パワーステアリングが大幅に増加したほか、オートマチック・トランスミッション用部品が好調でした。精密機器関連製品は、工作機械向けや一般産業向けが堅調に推移しましたが、液晶カラーフィルター製造用露光装置が減少するなど、半導体関連向けが低迷しました。

この結果、日本の売上高は2,629億40百万円（前年同期比3.6%増）となりました。営業利益は、産業機械軸受や自動車関連製品の物量増効果、円安による輸出採算の改善などはありませんでしたが、精密機器関連製品の販売減、税制改正に伴う減価償却費の増加、販売管理費の増加などにより214億5百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

② 米州

産業機械軸受の売上高は、電機向けや一般機械向け、建設機械向

連結中間決算ハイライト

(単位 百万円)

	2008年3月期 中間	2007年3月期 中間	2007年 3月期
売上高	369,326	349,266	717,225
営業利益	31,576	30,015	62,383
経常利益	29,368	27,756	57,595
中間(当期)純利益	17,701	17,281	34,853
総資産	817,540	746,197	815,788
純資産	291,987	258,529	276,727
自己資本比率(%)	33.8	32.9	32.2
1株当たり			(単位 円)
純資産	511.31	454.74	485.62
配当額	9.00	7.00	16.00
中間(当期)純利益	32.75	32.01	64.53

TOP MESSAGE

けが増加しました。自動車関連製品は、軸受はブラジルやカナダで売上を伸ばしましたが、米国ではトラック、ミニバン需要低迷の影響を受け減少しました。自動車部品は、拡販によりステアリングコラムが増加しました。精密機器関連製品は半導体関連向けやアフターマーケット向けが減少しました。

これらに為替レート変動による増加が加わり、米州の売上高は545億24百万円（前年同期比8.6%増）となりました。営業利益は、産業機械軸受の販売増などにより25億6百万円（前年同期比24.5%増）となりました。

③ 欧州

産業機械軸受の売上高は、風力発電向けや一般産業向け、アフターマーケット向けが増加しました。自動車部品は高出力型パワーステアリングが増加しましたが、採用車種のモデルチェンジに伴い従来型電動パワーステアリングは大幅に減少しました。精密機器関連製品は工作機械向けが順調に伸びたほか、一般産業向けが増加しました。

これらに為替レート変動による増加が加わり、欧州の売上高は661億77百万円（前年同期比7.1%増）となりました。営業利益は、産業機械軸受販売増などにより40億85百万円（前年同期比28.2%増）となりました。

④ アジア

産業機械軸受の売上高は、アセアンや韓国の電機・情報機器向けが減少しましたが、中国が総じて好調で工作機械向け、一般機械向け、アフターマーケット向けなどが大幅に増加しました。自動車関連製品は、中国でハブユニット軸受が大幅に増加しました。精密機

器関連製品は、韓国では半導体関連向けやアフターマーケット向けが減少しましたが、アセアン、中国では工作機械向け等が好調でした。

これらに為替レート変動による増加が加わり、アジアの売上高は554億35百万円（前年同期比11.9%増）となりました。営業利益は、物量増による操業度効果や為替レート変動の影響により62億86百万円（前年同期比38.1%増）となりました。

Q 利益配分に関する基本方針、当期の配当の考え方をお聞かせください。

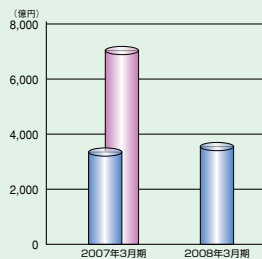
A 当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営方針の一つとしております。配当につきましては、安定的な配当を継続実施していくことを基本としつつ、連結ベースでの配当性向や業績水準等を勘案して決定したいと考えております。この基本方針のもと、当期の中間配当金につきましては、予定通り1株当たり9円で実施いたします。

Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

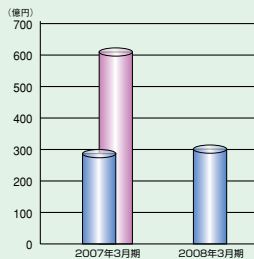
A NSKはグループ丸となって、2006年度からスタートした中期経営計画（2006-2008年）の下、製品はもとより経営の質を高め中期ビジョンの達成に注力してまいりました。本中間期はその折り返し点であり、着実に中期ビジョンの達成をすすめており、企業価値の向上に更に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

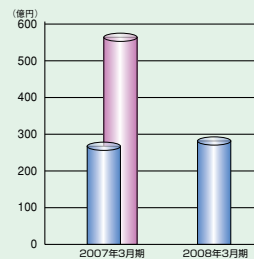
●売上高



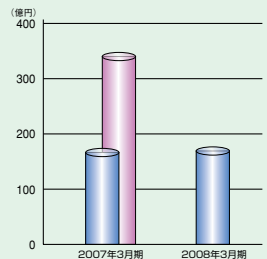
●営業利益



●経常利益



●中間(当期)純利益



製品別売上高の概要（連結）

精密機器関連製品

NSKの精密機器関連製品事業は、ボールねじ、リニアガイドなどの直動製品、XYテーブル、メガトルクモータなどのメカトロ製品と液晶カラーフィルター用露光装置のシステム製品で構成されております。

NSKは3つの製品で高精度・高速位置決めを必要とされる世界の様々な先端技術産業のお客様のニーズにお応えし、多種多様な商品を提供しております。

売上高の概要

日本国内向けは、旺盛な海外需要を背景に工作機械向けが堅調に推移しましたが、射出成形機、半導体・液晶製造装置向けの需要が低迷したことにより、前年同期比12.6%の減収となりました。

一方、海外におきましても、欧州では堅調に推移しましたが、米州・アジアでの半導体・液晶製造装置向けの急激な需要減により、前年同期比23.3%の大幅な減収となりました。以上の結果、精密機器関連製品全体では前年同期比18.2%の減収となりました。



高防塵ボールねじ V1シリーズ
NSKの技術を極めた高防塵シールを搭載、異物環境下で優れた能力を発揮し、長寿命を実現

乗用車用電動パワーステアリングモータの小型化と低騒音を実現した高出力コラム式電動パワーステアリングを実用化開発



自動車関連製品

NSKの自動車関連製品事業は、ハブユニット軸受やニードル軸受などに代表される自動車軸受事業、電動パワーステアリングをはじめとするステアリング事業、ワンウェイクラッチなどのオートマチック・トランスミッション用部品事業で構成されております。NSKは、環境への配慮、更に安全性、快適性を追求した製品開発をしてグローバルな生産拠点を活用しながら、日本のみならず米州・欧州・アジアの自動車メーカーにも幅広く高性能・高品質の製品を供給しております。

売上高の概要

日本国内向けは、輸出向けの伸びによる堅調な自動車生産を背景に電動パワーステアリング、オートマチック・トランスミッション用部品を中心に自動車部品が大幅な増収となりました。また、自動車軸受もニードル軸受を中心に増加いたしました。

一方、海外におきましてもは自動車軸受が中国のハブユニット軸受を中心に増加いたしました。この結果、自動車関連製品では前年同期比8.8%の増収となりました。

産業機械軸受

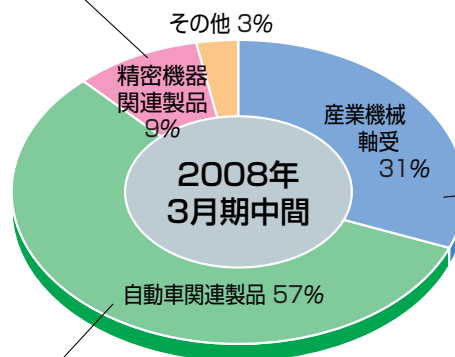
NSKの産業機械軸受は、グローバルな総合軸受メーカーとして販売・生産・研究開発の拠点を日本・米州・欧州・アジアの4極に展開し、小径・標準玉軸受から超大形ころ軸受にいたるまで、多種多様な軸受を世界のあらゆる産業・地域に供給しております。中でも、産業機械用大形ころ軸受・精密軸受や小径～標準玉軸受ではフルレンジの品揃えと技術力による高い市場シェアを持ち、世界をリードしております。

売上高の概要

日本国内向けは、好調が続く工作機械向けや、中国をはじめとした好調な海外需要に基づく各国内産業向けの増により堅調に売上げを伸ばしました。一方、海外でも欧州での風力発電向けをはじめとした需要拡大や、米州でのアフターマーケット向け拡販、高成長を続ける中国・インドでの各産業向け大幅増など、各極で順調に売上を伸ばしました。以上の結果、産業機械軸受全体では前年同期比8.7%の増収となりました。



高機能薄肉アンギュラ玉軸受
小型・低トルク、高剛性を実現し、ロボットの小型・軽量化、高速化に貢献



FINANCIAL REPORT

中間連結決算の概要

中間連結貸借対照表

(単位 百万円)

科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日)	2007年3月期中間 (2006年9月30日)	2007年3月期 (2007年3月31日)	科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日)	2007年3月期中間 (2006年9月30日)	2007年3月期 (2007年3月31日)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	381,169	325,030	389,067	流動負債	292,478	269,272	297,489
現金及び預金	73,648	44,163	68,354	支払手形及び買掛金	125,109	118,131	122,115
受取手形及び売掛金	130,813	125,611	131,417	短期借入金	85,224	80,046	84,869
有価証券	27,875	11,667	40,339	コマーシャルペーパー	—	5,000	—
棚卸資産	107,005	105,266	105,043	社債	23,000	10,000	23,000
繰延税金資産	7,690	10,864	10,190	未払法人税等	5,597	7,488	11,183
その他の流動資産	35,527	29,336	35,481	その他の流動負債	53,547	48,605	56,320
貸倒引当金	△1,391	△1,879	△1,759	固定負債	233,074	218,395	241,571
固定資産	436,370	421,166	426,721	社債	92,000	75,000	102,000
有形固定資産	262,225	251,525	256,872	長期借入金	46,672	52,409	45,687
建物及び構築物	75,339	73,275	72,737	繰延税金負債	39,485	40,343	39,536
機械装置及び運搬具	126,086	121,510	124,679	退職給付引当金	39,707	37,086	39,893
土地	37,217	36,961	37,110	役員退職慰労引当金	1,038	786	938
その他の有形固定資産	23,581	19,778	22,345	環境安全対策引当金	313	751	685
無形固定資産	10,543	9,626	9,438	その他の固定負債	13,856	12,018	12,830
投資その他の資産	163,602	160,014	160,410	負債合計	525,553	487,668	539,061
投資有価証券	111,258	114,142	112,352	(純資産の部)			
前払年金費用	41,027	35,661	38,063	株主資本	276,665	249,891	262,736
繰延税金資産	3,060	2,797	2,855	資本金	67,176	67,176	67,176
その他の投資その他の資産	9,090	8,280	8,275	資本剰余金	78,278	78,149	78,238
貸倒引当金	△834	△867	△1,138	利益剰余金	135,345	108,736	121,441
資産合計	817,540	746,197	815,788	自己株式	△4,134	△4,170	△4,119
				評価・換算差額等	△298	△4,289	△311
				その他有価証券評価差額金	33,877	36,058	36,548
				為替換算調整勘定	△9,280	△17,256	△11,963
				英国子会社等の退職給付債務処理累計額	△24,895	△23,091	△24,895
				新株予約権	108	16	56
				少数株主持分	15,511	12,910	14,245
				純資産合計	291,987	258,529	276,727
				負債及び純資産合計	817,540	746,197	815,788

FINANCIAL REPORT

中間連結損益計算書

(単位 百万円)

科目	2008年3月期中間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)		2007年3月期中間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)		2007年3月期 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)	
	金額	対売上高比率 %	金額	対売上高比率 %	金額	対売上高比率 %
売上高	369,326	100.0	349,266	100.0	717,225	100.0
売上原価	284,555	77.0	269,058	77.0	551,069	76.8
売上総利益	84,771	23.0	80,207	23.0	166,155	23.2
販売費及び一般管理費	53,194	14.5	50,191	14.4	103,772	14.5
営業利益	31,576	8.5	30,015	8.6	62,383	8.7
営業外収益	5,194	1.5	4,601	1.3	9,783	1.3
受取利息及び配当金	1,629	0.5	1,255	0.4	2,425	0.3
持分法による投資利益	1,919	0.5	1,535	0.4	3,925	0.5
雑益	1,646	0.5	1,810	0.5	3,431	0.5
営業外費用	7,402	2.0	6,860	2.0	14,571	2.0
支払利息	3,140	0.8	2,578	0.8	5,473	0.7
雑損	4,262	1.2	4,282	1.2	9,098	1.3
経常利益	29,368	8.0	27,756	7.9	57,595	8.0
特別利益	159	0.0	229	0.1	1,883	0.3
投資有価証券売却益	159	0.0	—	—	—	—
固定資産売却益	—	—	229	0.1	1,342	0.2
関係会社株式売却益	—	—	—	—	540	0.1
特別損失	164	0.0	—	—	2,441	0.3
関係会社株式売却損	164	0.0	—	—	—	—
事業構造改善費用	—	—	—	—	2,441	0.3
税金等調整前中間(当期)純利益	29,363	8.0	27,985	8.0	57,037	8.0
法人税、住民税及び事業税	6,462	1.8	8,135	2.3	17,371	2.4
法人税等調整額	4,207	1.1	1,794	0.5	2,827	0.4
少数株主利益	991	0.3	773	0.3	1,985	0.3
中間(当期)純利益	17,701	4.8	17,281	4.9	34,853	4.9

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

科目	2008年3月期中間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)		2007年3月期中間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)		2007年3月期 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)	
	営業活動によるキャッシュ・フロー	32,407	22,877	64,153		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,883	△18,943	△64,600			
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,857	△6,811	20,929			
現金及び現金同等物に係る換算差額	447	160	969			
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	3,114	△2,716	21,452			
現金及び現金同等物の期首残高	73,319	51,812	51,812			
連結子会社の決算期変更による増加高	726	54	54			
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	77,159	49,150	73,319			

中間連結株主資本等変動計算書

(自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

(単位 百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	英国子会社等の退職 給付債務処理累計額	評価・換算 差額等合計			
2007年3月31日 残高	67,176	78,238	121,441	△4,119	262,736	36,548	△11,963	△24,895	△311	56	14,245	276,727
中間連結会計期間中の変動額												
剰余金の配当			△4,868		△4,868							△4,868
中間純利益			17,701		17,701							17,701
関係会社の決算期変更による剰余金増加額(注)			1,069		1,069							1,069
自己株式の取得				△85	△85							△85
自己株式の処分		39		70	110							110
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△2,671	2,683		12	52	1,266	1,331
中間連結会計期間中の変動額合計	—	39	13,903	△14	13,928	△2,671	2,683	—	12	52	1,266	15,259
2007年9月30日 残高	67,176	78,278	135,345	△4,134	276,665	33,877	△9,280	△24,895	△298	108	15,511	291,987

(注) 関係会社の決算期変更による剰余金増加額は、連結子会社8社が決算日を変更したことによるものであります(12月31日から3月31日に変更しています)。

中間単体決算の概要

中間貸借対照表

(単位 百万円)

科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日)	科目	2008年3月期中間 (2007年9月30日)
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	242,907	流動負債	262,582
現金及び預金	37,256	支払手形	1,963
受取手形	248	買掛金	128,731
売掛金	97,372	短期借入金	86,489
有価証券	25,603	社債	23,000
棚卸資産	26,963	未払金	9,248
未収入金	35,824	未払費用	11,044
繰延税金資産	3,109	未払法人税等	1,147
その他の流動資産	16,528	その他の流動負債	957
固定資産	455,321	固定負債	169,195
有形固定資産	84,024	社債	92,000
建物及び構築物	28,029	長期借入金	41,500
機械装置	32,615	繰延税金負債	32,009
車両運搬具	96	役員退職慰労引当金	1,038
工具器具備品	2,845	環境安全対策引当金	300
土地	15,912	その他の固定負債	2,346
建設仮勘定	4,524	負債合計	431,777
無形固定資産	4,528	(純資産の部)	
投資その他の資産	366,769	株主資本	233,265
投資有価証券	75,054	資本金	67,176
関係会社株式	209,221	資本剰余金	78,132
長期貸付金	25,379	資本準備金	77,923
前払年金費用	40,973	その他資本剰余金	208
その他の投資その他の資産	17,099	利益剰余金	91,863
貸倒引当金	△958	利益準備金	10,292
資産合計	698,229	その他利益剰余金	81,570
		事業研究費積立金	1,627
		固定資産圧縮積立金	3,194
		固定資産圧縮特別勘定積立金	320
		別途積立金	62,266
		繰越利益剰余金	14,162
		自己株式	△3,906
		評価・換算差額等	33,077
		その他有価証券評価差額金	33,077
		新株予約権	108
		純資産合計	266,451
		負債及び純資産合計	698,229

中間損益計算書

(単位 百万円)

科目	2008年3月期中間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)
売上高	221,562
売上原価	191,522
売上総利益	30,039
販売費及び一般管理費	22,313
営業利益	7,725
営業外収益	7,168
受取利息及び配当金	6,639
雑益	529
営業外費用	3,923
支払利息	1,898
雑損	2,025
経常利益	10,970
特別利益	159
投資有価証券売却益	159
特別損失	207
関係会社出資金売却損	207
税引前中間純利益	10,923
法人税、住民税及び事業税	67
法人税等調整額	1,864
中間純利益	8,991

*中間連結決算の概要及び中間単体決算の概要の記載金額は百万円未満を切り捨てています。

第40回東京モーターショー 2007

NSKは、第40回東京モーターショー 2007で「マルチリング」など、省エネと安全・快適に貢献するNSKの

NSKは、10月24日(水)から11月11日(日)まで千葉県の幕張メッセで開催された「第40回東京モーターショー 2007」に、「クルマの未来は、もう回りはじめています。」をテーマに出展しました。NSKは、クルマ社会の最も重要なテーマである省エネルギー、安全・快適に貢献し、製品を通じて多くの方に感動を与えられる新しい提案をしました。

10月25日(木)に開催したプレスブリーフィングでは、クルマに使われるベアリングの摩擦を2016年には半減し(対2006年比)、燃費1%の向上に貢献することを宣言しました。また、省エネルギーと安全・快適の両方を実現した世界初の「デュアルピットマンアーム式ステア・バイ・ワイヤ(DPASS™)」を発表しました。DPASS™はマルチセンシングハブにより3次元の路面加重情報を捉え、

走行時のタイヤすべりロスを低減し、省エネルギーに貢献すると同時に、走行安定性を高めることができます。更には小型車においても広く快適な室内空間も実現します。会場に展



プレスブリーフィング(副社長 町田)

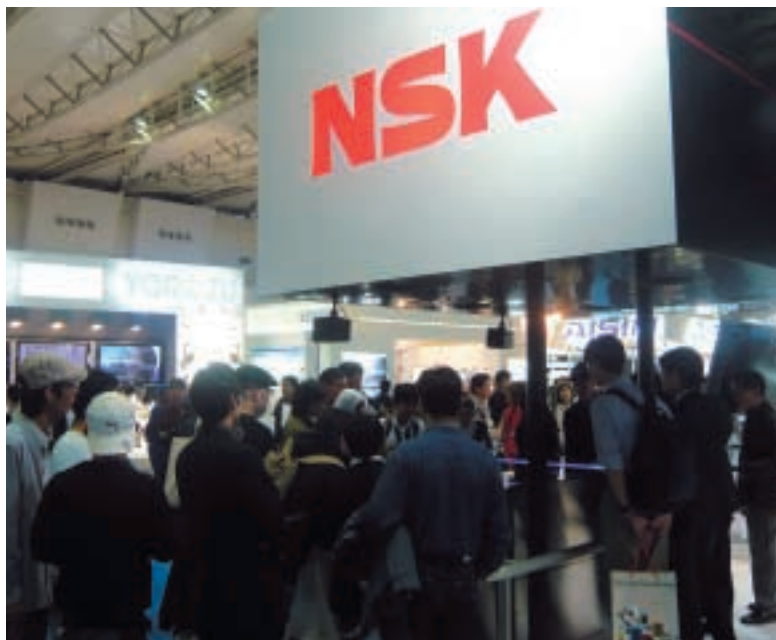
示したDPASS™のシミュレーターは大人から子どもまで多くの方がハンドルを握り、滑りやすい路面でも安全に運転する機能を擬似体感するために、常に順番待ちができるほどでした。



DPASS™のシミュレーター

モーターショー開催期間中を通して、NSKブースには約8万人もの多くの方が訪れ、常に賑わっておりました。会期中、今回のNSKブースに来場した多くのメディアや一般来場者の関心を集めたのは、限りなく平坦な板の上を限りなく完全に近い2つの球が転がるオブジェ「絵になる転がり」です。この玉の滑らかな転がりと自由自在な動きは、NSKの

「チセンシングハブ+ピットマンアームSBW」や「可変ステア最新技術・製品」を数多くの方々に紹介し好評を博しました。



多くの来場者で賑わうオブジェ「絵になる転がり」

「Motion & Control™」技術と超精密加工技術の結実であり、省エネルギー、安全・快適を実現したクルマの未来の動きを象徴しています。極めて摩擦が少ない玉と板が見せる不思議な世界に、来場者からは驚嘆の声が上がっていました。

今回の東京モーターショーでは、この他にも「可変ステアリング」をはじめとするNSKが誇る最新技術や製品を多数展示しました。NSKはこれからも、クルマ社会の未来を考え、常に価値ある技術や製品を開発し続けていきます。

表紙撮影：ナカサアンドパートナーズ

NSK
NEWS

「秋田わか杉国体」に出場

9月29日（土）から10月9日（火）まで秋田県で開催された第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」に、NSKの社員が出場しました。石部工場より女子ソフトボール（滋賀県代表選抜）、藤沢工場より男子9人制バレーボール（神奈川県代表）、個人参加としてボウリング（神奈川県代表チーム）の3種目に参加しました。女子ソフトボールチームは

準々決勝に進出し、バレーボールでは健闘したものの強豪の地元秋田県チームと対戦し敗

退しましたが5位、ボウリングの個人戦では総合4位という好成績を残しました。出場した社員はいずれも全国から集まった強豪を相手に国体ならではのレベルの高い熱戦を繰り広げました。出場選手が所属する藤沢工場、石部工場からは、数多くの社員が現地に駆けつけ、盛んに声援をおくりました。



NSKでは社員のライフワークバランスを尊重し、社外活動の機会も積極的に支援しています。これにより、選手は日々の仕事と競技の練習を両立させ、これまでも地域別大会、全国大会にも参加し、輝かしい実績を積み重ねています。一人一人の社員が充実した余暇を過ごすことで、職場においても澁刺とした自己実現が可能になっています。

会社概要 (2007年9月30日現在)

商号：日本精工株式会社 (NSK Ltd.)
 本社：東京都品川区大崎一丁目6番3号
 設立：1916年11月8日
 資本金：671億円
 従業員数：4,786名 (NSKグループ 24,211名)
 主な事業内容：産業機械軸受、自動車関連製品、
 精密機器関連製品等の製造販売



取締役メンバー

主な事業所及び工場

東日本自動車第一部 (厚木)
 神奈川県厚木市中町2-6-10
 東日本自動車第一部 (富士)
 静岡県富士市永田町1-124-2
 東日本自動車第二部 (大崎)
 東京都品川区大崎 1-6-3
 東日本自動車第二部 (東海)
 愛知県安城市三河安城町1-9-2
 東日本自動車第二部 (熊谷)
 埼玉県熊谷市筑波3-4
 東日本自動車第三部 (宇都宮)
 栃木県宇都宮市今泉3-9-4
 東日本自動車第三部 (東海)
 愛知県安城市三河安城町1-9-2
 中部日本自動車部 (豊田)
 愛知県豊田市下市場町5-10
 中部日本浜松自動車部 (浜松)
 静岡県浜松市板屋町111-2
 西日本自動車部 (大阪)
 大阪府大阪市中央区北浜東1-26
 西日本自動車部 (広島)
 広島県広島市南区大州3-7-19
 藤沢工場
 神奈川県藤沢市鶴沼神明1-5-50
 大津工場
 滋賀県大津市晴嵐1-16-1
 石部工場
 滋賀県湖南市石部か丘1-1-1
 埼玉工場
 埼玉県羽生市大沼1-1

役員 (2007年9月30日現在)

取締役 (代表執行役社長)	朝香 聖一	執行役員	伊藤 雅夫
取締役 (代表執行役副社長)	町田 尚	執行役員	相島 雅一
取締役 (代表執行役副社長)	大塚 紀男	執行役員	市川 達夫
取締役 (代表執行役専務)	原 道夫	執行役員	高橋伸一郎
取締役 (執行役専務)	出川 光夫	執行役員	斉藤 佳男
取締役 (執行役専務)	庄司 雅夫	執行役員	大坪由二郎
取締役 (執行役常務)	阿部 信義	執行役員	満江 直樹
取締役	村本 薫	執行役員	武岡 博和
社外取締役	伊庭 保	執行役員	河島 邦雄
社外取締役	佐成 豊彦	執行役員	高川 恵介
社外取締役	有田 龍郎	執行役員	殿塚 崇
社外取締役	岡部 弘	執行役員	磯貝 喜七
執行役員 常務	谷川 彰	執行役員	桑原 克己
執行役員 常務	新保 敏英	執行役員	長竹 和夫
執行役員 常務	齋藤 量一	執行役員	ルバルト・シュナイダー
執行役員 常務	建部 幸夫	執行役員	御木 高直
執行役員 常務	小林 秀一	執行役員	松原 正英
執行役員 常務	正田 義雄	執行役員	石田 孝
執行役員 常務	小森 勉	執行役員	長島 俊幸
執行役員 常務	松田 和雄		
執行役員 常務	芝本 英之		

連結子会社 84社

主な連結子会社名

- NSK販売 (株)
- NSK福島 (株)
- NSKステアリングシステムズ (株)
- NSKプレジジョン (株)
- NSKニードルベアリング (株)
- NSKマイクロプレジジョン (株)
- 日本精工九州 (株)
- (株) 天辻鋼球製作所
- NSKアメリカズ社 (アメリカ)
- NSKコーポレーション社 (アメリカ)
- NSKブラジル社 (ブラジル)
- NSKヨーロッパ社 (イギリス)
- NSKベアリング・ヨーロッパ社 (イギリス)
- NSKベアリング・ポーランド社 (ポーランド)
- 恩斯克投資有限公司 (中国)
- NSK韓国社 (韓国)
- NSKベアリング・インドネシア社 (インドネシア)
- NSKインターナショナル (シンガポール) 社 (シンガポール)

持分法適用会社 17社

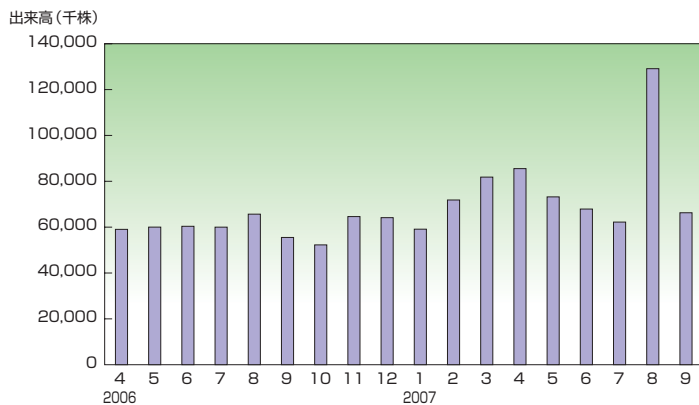
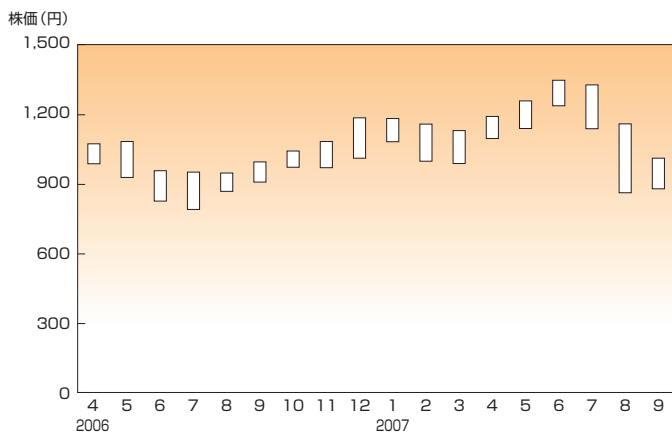
主な持分法適用会社名

- NSKフナー (株)
- 井上軸受工業 (株)
- NSKベアリング (タイ) 社 (タイ)

株式の状況 (2007年9月30日現在)

資本金:	67,176,546,655円
発行済株式総数:	551,268,104株
株主数:	26,695名
当上半期中の名義書換件数:	589件
当上半期中の名義書換株数:	9,703,080株

株価及び出来高の推移 (2006年4月～2007年9月)

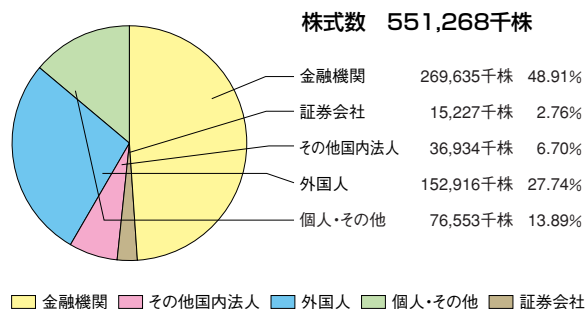
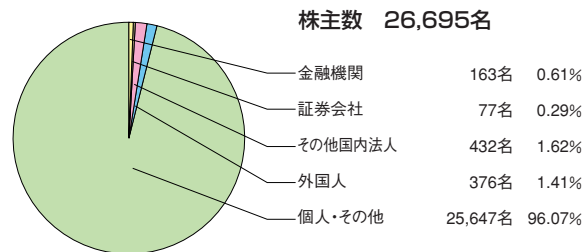


大株主

株主名	所有株式数	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	47,111千株	8.55%
富国生命保険相互会社	29,000千株	5.26%
日本生命保険相互会社	27,575千株	5.00%
明治安田生命保険相互会社	25,726千株	4.67%
株式会社みずほコーポレート銀行	21,511千株	3.90%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	20,575千株	3.73%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	16,318千株	2.96%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・トヨタ自動車株式会社退職給付信託口)	10,709千株	1.94%
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,675千株	1.39%
株式会社損害保険ジャパン	7,248千株	1.31%

(注) 上記以外に、当社は自己株式10,367千株 (出資比率1.88%) を保有しております。

所有者別分布状況



株主メモ

- 決算日 3月31日
- 定時株主総会 6月
- 配当の基準日 期末配当金—3月31日
中間配当金—9月30日
- 1単元の株式の数 1,000株
- 株主名簿管理人 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- 郵便物送付先 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
- お問合せ先 0120-288-324 (フリーダイヤル)
- 同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
- 公告掲載 電子公告により行います。http://www.jp.nsk.com/
但し、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する方法により行います。

単元未満株式を保有されている皆様へ

当社では、単元未満株式の買増制度を導入しており、ご所有の単元未満株式を1単元(1,000株)とするため、必要な数の株式の買増しを当社に請求することができます。また、単元未満株式の買取りも行っております。以上のお手続きをご希望の方は、みずほ信託銀行証券代行部(株券保管振替制度をご利用の場合はお取引口座のある証券会社)までお問合せください。

株主の皆様へ

今回、皆様アンケートをご同封させていただいております。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

NSK 日本精工株式会社

ホームページアドレス：
<http://www.nsk.com/>

